

# グループディスカッションにおける役割の最適化及びその汎用性について

芝浦工業大学附属高等学校  
 東田 繁洸  
 須山 伶於  
 須山 莉於  
 福田 啓太



## 1. 研究背景

ビジネスモデルコンペティションなどに出場するうえでグループディスカッションを行う機会が多く、

役割の分担によってアイデアの出やすさの違いが出てしまう点で苦労していた。



統計を取り、役割分担の最適化を行うことで、スムーズにアイデア創出をおこなうことができると考えた。

## 2. 統計対象

当校の「探究」授業で行ったグループディスカッションの録音データをもとに以下のデータを抽出し、統計を行う。

- ・リーダーの数
- ・アイデアマンの数
- ・役職のない人の数
- ・出たアイデアの数

また、以下のような仮説を立てた

リーダーの数は少ない方が良い  
 より多くの役割を作ったほうが良い

## 3. 統計方法

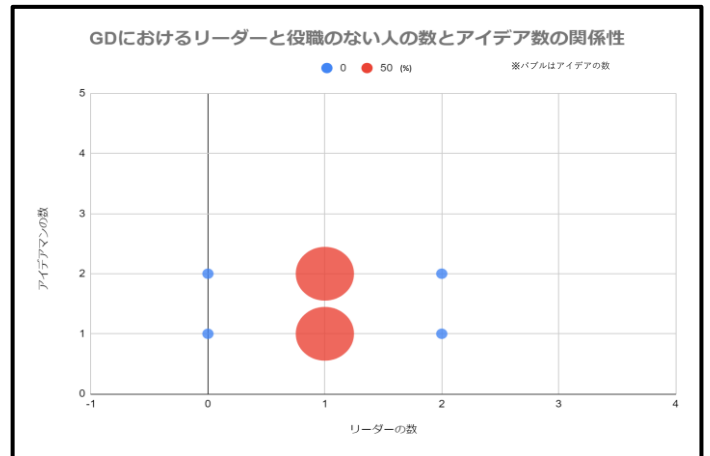
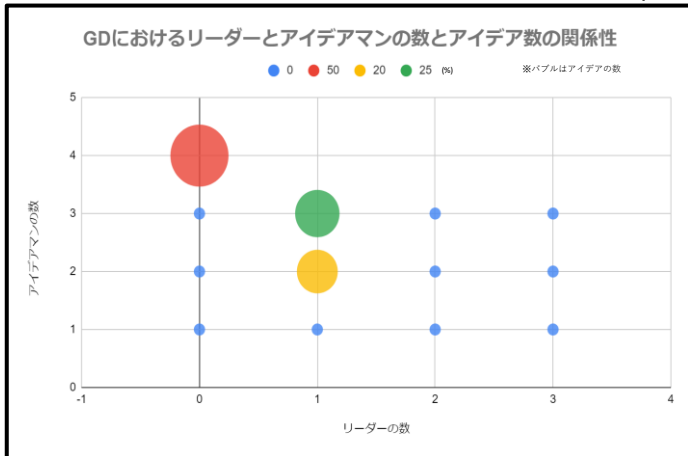
以下のような条件でグループディスカッションを行ったデータをもとに統計を行う

- ・チームの人数は4~5人
- ・チームの組み合わせは出席番号順

以上の点で評価を行い、

アイデアの個数が平均以上かどうかの確率を求める。

## 4. 統計結果



以上のデータから「リーダー1人・アイデアマン2~4人」が最適であるということが分かった。

しかし、データの数34個であり、正確な統計を行えていないと感じた。

そのため、所属している美術部の部員に協力してもらい次のような検証を行った

## 5. 再検証

2~4で使用したデータとは別に、以下のような再検証を行う。

リーダー1,アイデアマン3,4のチームをチームA,B

リーダー1,役職なし2,アイデアマン1のチームをチームC,Dとしてチーム間で比較を行う。

再検証を行った結果、以下のような表が求められた。

チーム名	アイデア数
Aチーム	15
Bチーム	12
Cチーム	8
Dチーム	7



ZOOMでのグループディスカッション風景

## 6. 考察

以上のような事から、

**リーダー1人・アイデアマン2~4人**がグループディスカッションで最適化された役割分担

であると考えられる。

仮説とは違い、アイデアマンに人数を使うとより良いグループディスカッションができることが分かった。